



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 328

April 2018

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

2018年度通常総会・会員懇親会のお知らせ

NPO 法人神戸日独協会は、2018年度通常総会を下記の要領にて開催いたします。
総会後には会員懇親会を開催し、会員の皆様と楽しい時間を過ごしたいと思っております。
総会と会員懇親会に、より多くの会員のご出席・ご参加を心よりお待ちしております。

2018年度通常総会

日 時： 2018年5月26日(土) 16:00～17:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

(神戸市中央区元町通1-4-13 TEL 078-333-6868)

※ 会員の皆様には「総会開催案内」と「総会資料」を5月上旬にお送りいたします。

ご出・欠席のお返事は同封のハガキにて5月22日(火)までをお願いいたします。

会員懇親会

日 時： 2018年5月26日(土) 17:10～19:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

会 費： 4000円

会費は同封の振込用紙で郵便局にてお振込み下さい。領収書は当日会場にてお渡しいたします。

申 込： 5月22日(火)まで事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

ドイツ大使主催「日独協会秋祭り」のお知らせ

ドイツ連邦共和国大使館より、各日独協会若手会員のためのドイツ大使主催「日独協会秋祭り」の案内が来ましたのでご連絡します。

開催趣旨： 各地の日独協会の会員の方で、日ごろから小さなことでも日独関係の促進のために積極的に活動されている方のご尽力を称え、今後の励みとしていただくために開催する。新規会員については、活動実績が乏しい場合があるので、こうした実績よりも、尽力されている他の会員の方々に続いて今後両国関係の発展に寄与していただく動機付けになればと考え、更にこうした機会があることで少しでもそれぞれの協会の新規会員の獲得にプラスになればとの思いから実施する。

日 時： 2018年9月17日(月・祝)14:00～16:00

場 所： ドイツ大使公邸 (東京都港区南麻布4-5-10)

地下鉄日比谷線広尾駅下車徒歩5分

参加条件： 1. 2017年5月以降に入会された、新規会員のかた。

2. 45歳以下の方で、過去に2回以上参加されたことの無い方。

申 込： 4月24日までに、所定のフォーマットに記入の上、所属日独協会を通じて申込み。

☆ただし、後ほど大使館にて人数の調整をさせていただく場合がありますので、予め了承のこと。

上記の参加条件に該当される方で、参加を希望される方は、4月23日(月)までに神戸日独協会へお申し出ください。参加フォーマットをメールにてお送りいたします。

問合せと申込は直接大使館へではなく、神戸日独協会までお願いします。

ハンブルク桜の女王・ハンブルク独日協会歓迎会報告

会長 柘田 義一

2018年4月5日夕刻から神戸酒心館「さかばやし」にて、ハンブルク市独日親善大使として来日した第2代ハンブルク桜の女王アンナ・アルマゴーさんとハンブルク独日協会の橋丸榮子会長と幹部会員の方々の歓迎会を開催しました。

桜の女王アルマゴーさんはハンブルク大学日本学科の学生で、すでに熊本大学への留学経験もあるので日本語もでき、ハンブルク独日協会の橋丸会長、Klaus Rogge さん、Joachim Meyer-Plückthun さんもすでに前回2016年の訪問で顔なじみであることから、歓迎会が始まるとともにドイツ語と日本語とを入り交えての楽しい懇談を通じて、両協会の親善友好をさらに深めることが出来ました。酒心館庭園の満開のしだれ桜をバックに記念写真を撮り、この gemütlich であった春宵を思い出にして帰路につきました。

今回は桜の女王とハンブルク独日協会の方々とともに、ハンブルク市のフランク・ホルヒ経済・交通・技術革新担当大臣とコルヤ・ハーダース同局長をはじめとするハンブルク市ビジネスミッションが来神しました。訪問団は4月3日の神戸市主催の「環境・エネルギーシンポジウム」に参加し、4月4日には「神戸市と自由ハンザ都市ハンブルクとの連携・強力に関する共同宣言」が署名されました。神戸市とハンブルク市はともに環境と経済の両立を目指して再生可能エネルギーや水素エネルギーの利用・活用に取り組んでいる点で共通しています。この共同宣言の署名により、今後の環境・エネルギー分野をはじめとする両都市間の交流の発展が期待されます。

4月7日に「しあわせの村」にて、アルマゴーハンブルク桜の女王と(公財)日本さくらの会の第27代日本さくらの女王である西宮市出身の竹中理沙子さん、そしてホルヒ大臣らによって桜の植樹が行われました。

(歓迎会などの記念写真は、協会ホームページをご覧ください)

行事参加感想文

ヴルフ元大統領歓迎会に参加して

会員 友岡 賢二

ドイツ連邦共和国クリスティアン・ヴルフ元大統領が関西にいらっしゃり、神戸日独協会と大阪日独協会が共同で歓迎会を11月19日に開催しました。ゴール目がけて奮闘する神戸マラソンのランナーの雄姿を眺めながら会場のホテルオークラ神戸に多くの方が集まりました。ヴルフ元大統領は非常に若々しく、フレンドリーで、大変な親日家でもあり、ご家族を連れての日本旅行が楽しみだと語られました。2011年FIFA女子ワールドカップ決勝がフランクフルトで開催され、なでしこジャパンが強敵アメリカを破って悲願の初優勝を成し遂げましたが、当時大統領として日本人選手一人ひとりにメダルを授与されたときの思い出も披露されました。美味しい料理とお酒で歓談する各テーブルをヴルフ元大統領自らが回られ、私たちと同じ目線で語り、かつ私たちからも学ぼうという姿勢に大変感銘を受けました。私は、ドイツで妻が出産、子育てした際、ヘバメ(Hebamme=助産婦)が定期的に家を訪問してくれて、赤ちゃんの成長とお母さんの心と体のケアをしてくれたことが大変助けになったことに感謝申し上げます。「日本では同じような支援はないのですか？」と聞かれましたので、「ここまで充実した制度は残念ながら整備されておりません。」とお答えしました。参加者からの写真撮影のお願いにもこやかに応じられ、この日集まった全ての人を温かい優しさで包み込み、私たちのドイツへの愛がより一層深まる素晴らしい一日となりました。

お詫び

友岡賢二さんのこの原稿は会報昨年12月号のためにお送りいただきました。会報編集の私の落ち度により遅れて今号での掲載になりました。友岡さんには掲載が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。 柘田義一

ドイツ語談話室

第172回ドイツ語談話室

日時：2018年3月17日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会 会議室

テーマ：物の買い方

今回の司会はドロテア合田様が担当され、買い物の支払い手段の移り変わりを振り返られた。まずは法定の通貨である紙幣と硬貨、次に振替送金、クレジットカード、銀行カード、オンライン支払、さらに新しくビットコインが登場。また、買い物や支払いに対して付与されるポイントカードやプリペイドカードでの支払いまである。こうした支払い手段の広がりは果たしてよい事なのかどうか？

物の買い方や支払い方法に関連して、参加者からの発言の一部を下記する。

—以前買い物とは、直接それぞれの店に行き品物を選んで買うものだった。その内多くの店を集めたような百貨店ができ、スーパーマーケット、電化量販店、ホームセンター、コンビニなどが出現。いずれも直接店に行って買う。一方で店を持たず売る通販が出来、インターネットの普及で直接商品を手にとらずに買って配達してもらうシステムが国内のみならず国際的にも急速拡大した。

—ドイツでの通貨を振り返ると、ターラー、マルク、ユーロがあり、小額通貨のヘラー、ペニヒ、グロッツェンがあった。こうした通貨が色々なことわざに使われている。例えば：“der Groschen ist gefallen(事態がやっと呑み込めた)”、“Wer den Pfennig nicht ehrt, ist des Talers nicht wert(小事をゆるがせにしては大事は成就しない)”、等々。

—インターネットでの買い物が急増していて、店では商品を見るだけ、または値段を比較するだけで、注文はインターネットです。このため販売が減って閉店する店が多くなっている。

—ドイツでも、小規模の店は閉店に追い込まれるケースが多く出て来ている。

—アメリカでも多くのショッピングモールが無くなってきている。やはりインターネット販売に負かされた結果である。

—中元や歳暮もお店で買わずにインターネットでの注文が増えている。

—現金で買うときだったら、値段にもよく注意して買い物をしたが、カードでの支払いは、心理的に安易になって金額に注意しないで買ってしまう。

—店の人と言葉を交わして買い物をするのは楽しく喜びを感じるが、インターネットでの買い物は非人間的。

—日曜市の賑わいの中で商品を見て廻ったり、店を出している人と会話をするのは生活の中の楽しみだったが、こうした対面販売が無くなってゆくのは寂しい事だ。

—インターネット販売は、余分な運送を増やしエネルギーの無駄遣いで、余分な梱包材が資源の無駄遣いとゴミの増加を引き起こす。

—食料品はスーパーマーケットでよく買うが、支払いはいつも現金。インターネットでの買い物は好きでない。

—ポイントカードシステムは、今やどんなものにも採用されている。ヨーロッパにも同様のシステ

ムがある。

—尼崎には古くから有名な商店街があり、現在も健在で多くの来客がある。

今後のドイツ語談話室の予定

第173回 2018年4月21日(土) 14-16時 テーマ:日本の大学はどのように変わるべきか

第174回 2018年5月19日(土) 14-16時 テーマ:農業の今日と将来

Deutsche Gesprächsrunde Protokoll der 172. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 17. März 2018, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die verschiedenen Arten, Dinge zu kaufen

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung und blickte auf die Veränderungen bei den Zahlungsmitteln zurück. Früher zahlte man der gesetzlichen Währung entsprechend mit Banknoten und Münzen, später erschienen branchenübliche Überweisungen, Kreditkarten, Debit-Karten, und E-Money und neuerdings „Bitcoins“. Des Weiteren sind auch noch Punktekarten und Prepaid-Cards, mit denen bezahlt werden kann, im Umlauf. Es stellt sich die Frage, ob dies eine positive Entwicklung ist oder eher Nachteile bringt.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

-Ein Teilnehmer sprach davon, dass man früher kleine Läden besuchte, um Waren zu kaufen. Dann entstanden die Kaufhäuser, wo verschiedenste Artikel an einem Ort angeboten werden. In der Folge erschienen die Supermärkte, groß angelegte Elektronik- und Heimwerkergeschäfte, Convenience Stores, usw. Doch auch hier geht man in den Laden und prüft die Dinge, die man kaufen möchte. Daneben erschien jedoch auch der Versandhandel, ohne besuchbare Verkaufsstätten. Mit der Ausbreitung des Internets kauft man nun die Waren, ohne sie einmal in der Hand gehalten zu haben und lässt sich die Artikel nach Hause liefern. Dieses Verkaufs- und Zustellungssystem verbreitet sich weltweit mit großer Geschwindigkeit.

-Die Gesprächsleiterin erzählte, dass es früher in Deutschland „Taler“ und „Mark“ als Währungen gab, und als Kleingeld „Heller“, „Pfennig“ und „Groschen“. Diese erscheinen heute noch in Redewendungen, wie z.B. „der Groschen ist gefallen“, oder „Wer den Pfennig nicht ehrt, ist des Talers nicht wert“.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass mit der fortlaufenden Zunahme von Internet-Shopping die Leute Läden nur mehr besuchen, um die Artikel anzusehen, zu prüfen, Preise zu vergleichen etc., nicht aber, um diese zu kaufen. Deswegen sind viele Läden eingegangen.

-Eine Teilnehmerin bemerkte, dass auch in Deutschland viele kleine Läden

verschwinden sind.

-Ein anderer Teilnehmer sah, dass auch in den USA, viele Shoppingmalls geschlossen wurden.

-Eine weitere Teilnehmerin erwähnte, dass der Einkauf der traditionellen Geschenke zur Jahresmitte und zum Jahresende auch immer mehr über das Internet abgewickelt wird.

-Eine Teilnehmerin denkt, dass man bei Bezahlung mit Bargeld stärker auf den Preis sieht, wohingegen man bei der Kreditkarte dazu neigt, den Preis weniger zu beachten.

-Eine Teilnehmerin freut sich über Gespräche mit Verkäuferinnen und Verkäufern. Einkäufe über das Internet findet sie daher fast unmenschlich.

-Für eine Teilnehmerin war es eine Freude bei lebhaften Wochenmärkten, die Waren anzusehen und mit den Leuten zu plaudern. Auch sie findet es schade, dass dieser persönliche Kontakt auf Märkten und in Läden immer mehr abnimmt.

-Eine Teilnehmerin denkt, dass der Verkauf über das Internet den Transport vermehrt und somit auch den Energieverbrauch. Ebenso steigt der Verbrauch von Verpackungsmaterial, was auch den Müll vermehrt.

-Eine Teilnehmerin kauft ihre Lebensmittel im Supermarkt und bezahlt immer mit Bargeld. Sie lehnt das Einkaufen über das Internet ab.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass heute in Japan das Punktekarten-System im fast allen Branchen Anwendung findet. Dieses System ist auch in Europa sehr üblich geworden.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass es in Amagasaki noch ein sehr bekanntes und althergebrachtes Geschäftsviertel gibt. Dieses Viertel ist sehr belebt, es zieht immer noch viele Besucher an.

Nächste Treffen:

Samstag 21. April 2018, 14 bis 16 Uhr, Thema: Was sollten japanische Universitäten unternehmen, um ihre Qualität zu erhöhen

Samstag 19. Mai 2018, 14 bis 16 Uhr, Thema: Landwirtschaft, heute und morgen.

ドイツ語講座2018年度第 I 期 木曜日夜間開講

ドイツ語講座は2018年度第 I 期よりこれまでのクラスに加えて木曜日夜間も開講します。18:10からの会話初級はドイツの人々の多様な日常生活や考え方をテーマにし、19:40からの会話中級はドイツのランデeskundeや異文化間コミュニケーションのテーマを取り上げ、EUの言語教育の基盤となっているヨーロッパ共通参照枠(CEFR)に基づくコミュニカティブ授業の経験豊かな杉谷眞佐子関西大学名誉教授が担当します。奮って新設クラスにご参加ください。

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第15回 『日本とドイツとそれから私』に参加して

神戸日独協会講師(入門クラス、初級クラス担当) 板山 眞由美

今回のドイツ文化サロンは長年、日独・英独翻訳と通訳の仕事をしてきた池田ビルギットさんを講師に迎えて、3月13日ユーハイム神戸元町本店ホールで開催された。冒頭で氏は、ドイツ事情や日独を比較した〇×クイズで参加者に問いかけた(国の面積が広いのはどちら?ドイツと国境を接している国はいくつ?など)。比較的簡単なものもあれば、ドイツで柔道をしている人の数(160万人)や、野球チームの数(600チーム)などは、会場からたくさん「ヘーッ!」という驚きの声が聞こえた。

次に自己紹介を兼ねて、氏と日本語との出会い、その後の日本との関わり、通訳・翻訳の仕事を通して得た経験ややりがい、日独を比較して考えることなどについて話をされた。大学で日本学を専攻したことが日本語との出会いとなり、修士課程の途中で1年間奈良に留学し、とても楽しい学生生活を味わい、帰国して修士課程を終えた後、大分県の長湯温泉で有名な直入(なおいり)町役場に就職し、2年間国際交流員として勤務し、姉妹都市との交流を担当した。1996年以降は、兵庫県養父市八鹿(ようか)町に生活の拠点を置き、三人のお子さんを育てながら、音楽を通じた日独交流にも努力されているとのこと。この間2004年にはドイツ国家検定翻訳士の資格を得て、公的な場での通訳、法律関係の翻訳の仕事が増えたと同った。1時間半に及ぶ講演の内容は、多岐にわたったが、特に印象に残ったいくつかの点について報告する。

直入町役場で勤務した時、ホームステイをする姉妹都市からの来訪者の世話をを行ったが、受け入れ先と来訪者との間のコミュニケーションを取り持つ中で、気持ちを通じたり、両者の間に友情が生まれる場面は感動的で、「見ていて素敵」だったとの思いを語られた。

通訳は「空気であるべき」、「自分の存在を感じさせない」、「目立たないのがよい」をモットーにしている。一方、普段はとうてい立ち入ることのできない先端技術の工場の中にも、通訳として同行することができる。またダボス会議では、日独の大手自動車メーカーの会長の、夕食を共にする場に立ち会った。G7では、参加国の担当大臣たちが参加したエネルギーをテーマとする会議で通訳をつとめ、世界の最新の動向を身近に知ることができたなど、通常目にしたり、耳にする機会がないことを経験することができる。

日独の社会を比べると、市民レベルではドイツの方が、環境意識がより高いように思われる(食料品の量り売り、サイクルシェアなど自転車の活用、リサイクルを奨励するシステムなど)。しかし企業レベルでは、日本の方が熱心であるように思われる。

日本でよく見られる制服・ユニフォームはドイツでは好まれない。皆で揃って行進するマーチングや団体行動も、戦後の学校教育の影響であると思われるが、違和感を持つ。学校教育に関しては、特に日本の小学校について、給食の制度や、生徒全員で校舎の清掃にあたる、担任が生徒たちをしっかりと把握しているなどの点が、高く評価できる。

氏は講演の最後に、金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」という詩を朗読された。その詩の最後の行「みんなちがってみんないい」が印象深く耳に残った。そのことば通り、日独の文化や生活感覚の違いを認め、その違いの背景に関心を持ち、二つのことばの間を行ったり来たりしながら、翻訳・通訳という難しい課題を乗り越えることにやりがいを感じておられる姿がとても頼もしく、心強く思われた。

ユーハイム神戸元町本店ホールを会場として開催された講演会の終盤は、バウムクーヘンとお茶・コーヒーが供されての質問時間となった。会場から多くの質問の手があがり、またたく間に時間が過ぎた。3階ホールに上がっていく階段の壁には、カール・ユーハイム氏や、カール・エリーゼ夫妻の写真を始め、バウムクーヘンを日本に最初に伝えたユーハイムの歴史をたどる写真が飾られていた。

第15回 『日本とドイツとそれから私』に参加して

合田 憲司

まずは、今回の講演のような催しに参加させていただいたのが2回目であるにもかかわらず、この場で文章を書く機会をいただいたことに感謝申し上げます。

さて、3月13日にユーハイム神戸元町本店ホールにて池田ビルギットさんをお招きした『日本とドイツとそれから私』という講演がありました。2時間という短い時間ではありましたが、非常に刺激的で貴重なお話を伺うことができました。講演は〇×クイズから始まり、ビルギットさんの簡単な経歴、通訳という仕事についての話題に進み、そして日本とドイツの違いに関していろいろとお話くださいました。講演の後半はユーハイム神戸のバウムクーヘンをいただきながら、感想や質問を交わす時間でした。

今回の講演ではいろいろな話題がありましたが特に印象に残った話が2つあります。1つは現在では素晴らしいお仕事をなさっているビルギットさんも日本語を習い始めたときは相当な苦労があったというお話を聞いたことです。ドイツ語に四苦八苦している自分にとってはとても勇気づけられるお話でした。

もう一つは日本とドイツの「責任感」の違いです。これは環境問題に対する態度の違い—企業の意識は高く国民の意識は低い日本と、企業の意識は低く国民の意識は高いドイツ—についての話題において言及されたと記憶しています。そしてこの違いはいろいろな日本とドイツの違いの中でも決定的な違いなのではないかと思われたのです。「和をもって貴し」という言葉がありますが、日本人は自分が属している集団へ責任感を強く感じる一方、ドイツ人は自分自身の信じる正しさや義務に対して責任感を感じているのではないかと思いました。特に今回の講演で話題になったものでは、学校に関する諸々のことや働き方の違いに関してはよく当てはまるように思います。この責任感の違いはそれぞれの国の成り立ちの違いという所謂“Gemeinschaft”と“Gesellschaft”の違いに由来するのかもしれませんが、今回語られた日本とドイツの戦後処理の違いという視点

は重要だと感じました。日本では天皇を中心とした神道を戦争の原因と考え、政教分離を進めた一方で、ドイツではナチスを選挙で選んだ国民一人一人にも責任があったという反省から教育を見直したというお話だったかと思います。

末筆となりますが、ご多忙の中わざわざ八鹿から2時間半もかけて来てくださったビルギットさんをはじめ、準備に奔走いただいたスタッフの方々には深く御礼申し上げます。また機会がありましたら是非参加させていただきたく思います。

拙い文章ではございましたが、最後までお付き合いいただきありがとうございました。

シリーズ「ドイツ、わが愛」

第10回 “Ruhetag”

会員 川見 正之

私のドイツとの関わり、というよりドイツ語圏とのかかわりは大学時代 IAESTE という、理工系学生の海外インターンシッププログラム参加の為スイスの機械系会社で夏休みを利用して約2ヶ月半滞在したことに始まります。そこでは Solothurn という町にあるスイス人の家庭でホームステイし、研修(工場実習)に通いました。40年以上も前のことで私にとって初めての飛行機、初めての海外旅行でした。英語が使えれば不自由無いと思い込んでいたのが実際スイスの田舎町では英語はあまり通じず、第二外国語であるカタコトのドイツ語でやっと意志を伝えたのを思い出します。日本に帰ってから、もう少しドイツ語も勉強しようと思い、当時のNHKテレビドイツ語講座で拝聴した小塩節先生と、ミヒヤエルミュンツァーさんの絶妙なレッスンが今でも印象に残っています。大学卒業後スウェーデン系の機械関係会社に入社しましたが、数年後その親会社がスイスの重工業会社と合併し、結果的にスイスに本社を置く会社のグループ企業に所属することになりました。その関連業務でスイス本社で1996年から1997年にかけて約1年半勤務することになりましたが、その際、運命的な出会いがありました。なんと、初めてスイスでホームステイした家庭の当時9歳の息子さんが、私と同じ会社で技術者として勤務していたのです。彼とは、社員食堂でよく一緒に食事をしたり、Solothurn の家にも招待されたりしました。

スイスではチューリッヒ州に滞在しました。ドイツ語に触れる機会は十分にあったのですが、仕事は英語がメインで、Swiss German のハードルがこえられなくて、滞在期間の割には、ドイツ語の上達は自慢できるものではありませんでした。

当時日本では今ほどゴミの分別が徹底されてなかったのでスイスでのゴミの分別ルールに悪戦苦闘しました。役所に用意してある分別ルール説明書はドイツ語、フランス語、イタリア語で英語の説明はありませんでした。日曜日は Ruhetag すなわち静かに過ごす日であり、全ての店はお休み。更に、日曜日は掃除機や洗濯機で大きな音を立てない。一方、平日会社の昼休みに近くのお店で文具用品を買いに行ったら、その店もお昼休みで閉まっていたり、なんて不便な所だと赴任当初は思いました。でもこのペースに自分を合わせられるようになったら、静かな日曜日、“Ruhetag” が非常に心地よいものと感じるようになりました。残念ながらそう思えるようになった頃に赴任期間が終了しました。

ドイツには短期の出張ベースでハイデルベルクを数回訪問しましたが、印象に残っているのはネッカー川沿いの小高い丘のある哲学の道からみる旧市街の美しい街並み、夜間ライトアップされた幻想的なハイデルベルク城、それにドイツワインでした。ワインの基礎知識もなく、本場で味わうドイツワインのおいしさに感銘したのですが、今思えば、神戸日独協会主催のドイツワインの会で教えていただいた事の少しでも知っていたら、もっとワインを楽しめたらと思う。今は日本の便利な生活パターンにすっかり慣れてしまっていますが、ふとスイスの”Ruhetag”の心地良い静けさを思い出す時があります。

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。次回の実行委員会は4月15日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は5月10日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込×切 など
4月15日(日) 15:00~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
4月21日(土) 14:00~	第173回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
5月26日(土) 16:00~	2018年度通常総会・ 会員懇親会	ユーハイム神戸 元町本店ホール	5月22日(火)まで